

<今日の説教のポイント コリントの信徒への手紙 I 1章 26～31 節>

①神様の新しい創造の開始のしるし — 無学・無力な者からなる教会!

パウロは、「あなたがた、コリントで信仰に導かれた人たちは、知恵ある者より無学な者が、力ある者より無力な者が、家柄が良い者より身分の卑しい者が多かったでしょう」と指摘します。なぜこんなことを言うのでしょうか、失礼じゃありませんか? そうではありません。パウロはもっと凄く出来事、神様のなさる業を見て驚いているのです。教会が知恵ある者や力ある者や家柄のいい者が集まってできていたら、そんなもの、なんの驚きもありません。この世の他の組織と別段変わりありません。しかし、そうでないから魅力なのです! 教会、それはこれまでのものとは違う、神様の新しい創造の業の開始を示すものなのです!

②神の前で誇ることがなくなるために(29) — 誇る者は主を誇れ!(30)

なぜ神様はこんな教会を造られたのでしょうか? パウロはここで、「神の前で誇ることがないようにするため」(29)、「誇る者は主を誇れ」(30)とっています。人間が神様を忘れ、自分の知恵を誇り、無力な者・無学な者・家柄の良くない者を見下すようになったからです。人間が神様を恐れ、神様の方を向いて生きるようになることを神様お求めておられるのです。

③旧約聖書にすでに出て来る教え — 自分の知恵でなく、主を知る知恵!

旧約聖書のエレミヤ書にこうあります、「主はこう言われる。知恵ある者は、その知恵を誇るな。力ある者は、その力を誇るな。富ある者は、その富を誇るな。むしろ、誇る者は、この事を誇るがよい。目覚めてわたしを知ることを」(9:22-23、サムエル記上 2 章のハンナの祈りも)。すでに旧約聖書で同じことが言われていたのです!

④主イエスの十字架の死による救い — この世の知恵と真逆の知恵!

「神によってあなたがたはキリスト・イエスに結ばれ、このキリストは、わたしたちにとって神の知恵となり、義と聖と贖いとなられたのです」(30)。パウロは明らかに、イエス様の十字架の死によって私たちの罪が贖われ、義とされ、聖となる、そういう神の知恵を考えています。普通は最低の姿と考えられている十字架の死。しかし、そこにおいて神様は人間の思いをはるかに超えた業、すなわち、私たちのような罪人を赦す神の赦しと救いの業をなして下さったのです! 神様の新しい恵みの創造の業の開始です。この神を信じずして、どの道を歩みます?